

ザールラント大学 応用言語学・翻訳・通訳研究科

1948年設立で1978年以来哲学部に属する翻訳者・通訳者養成学科。ドイツ語母語話者の他、フランス語を母語としてドイツ語を第1外国語とする学生を主な対象にしている。1990年以来特にコンピュータ技術の導入に力を入れて組織を大幅に拡充した。

言語

英語 フランス語 イタリア語 ロシア語 スペイン語

(基礎言語はドイツ語であるが、例外としてフランス語母語話者は基礎言語フランス語、第1外国語ドイツ語、第2外国語英語の組み合わせでもよい)

学修課程

	基礎課程	進級試験	専門課程	資格
翻訳課程	4学期(共通)	共通	4学期	翻訳ディプローム
通訳課程			4学期	通訳ディプローム

基礎課程(全言語共通の授業と言語毎の授業がある)

ドイツ語の表現力向上(文章の読解、分析、要約) 修辞論(特に通訳課程に必要)

外国語(文法、語彙、発声) 一般的文書の翻訳(双方向)

言語学・翻訳学(音声学、比較文法、語彙)

翻訳実習(双方向)

各国事情(おおよそはその国の言語で行なわれる 4学期間)

補完学科 経済学(経済学理論、経営学理論) 技術(電気工学、機械工学) 法律学(欧州法、民法、商法)

通訳入門 政治談話の解釈 修辞的談話分析

進級試験

第1外国語(双方向テキスト翻訳)、第2外国語(双方向テキスト翻訳)、言語学・翻訳学(各2時間)

専門課程

[翻訳コース] 専門分野の翻訳(補完学科と対応) 各国事情 会話の通訳

[通訳コース] 逐次及び同時通訳実習

専門課程では一般的な翻訳実習・通訳実習の他に、機械翻訳、テキスト言語学、メディアと翻訳・通訳等の分野について、講義、演習、実習が行なわれる。

またザールラント大学は翻訳・通訳学における電子情報処理のモデル機関として、正規の学修課程ではないが、「言語情報処理と機械翻訳」というコースが実験的に設けられており、コンピュータ言語学科との密接な協力の下にソフトウェアの地域言語化や用語処理といった授業が行なわれている。

諸外国への留学及び外国での職業実習が学生に奨励されており、CIUTI(国際翻訳通訳高等教育機関会議)をはじめ、各種ネットワークを通じた交流は盛んである。

資格取得試験

[翻訳コース]

1) 補完科目についての試験 (筆記2時間 口述30分)

補完科目より2科目を選択

2) 第1外国語の試験

一般的文章の翻訳 (双方向 各3時間)

選択した補完科目からの専門的文章の翻訳 (双方向 各3時間)

各国事情についての口述試験 (第1外国語にて 30分)

第1外国語による言語学・翻訳学のテキストについての口述試験 (30分)

3) 第2外国語の試験

一般的文章の翻訳 (双方向 各3時間)

各国事情についての口述試験 (第2外国語にて 20分)

4) 資格取得論文 (テーマの指示より6ヶ月以内に提出)

[通訳コース]

1) 補完科目についての試験 (筆記2時間 口述30分)

補完科目より2科目を選択

2) 第1外国語の試験

会議テキストの翻訳 (双方向 各2時間)

逐次通訳 (双方向 各30分)

同時通訳 (双方向 各15分)

選択した補完科目についての口述試験 (基礎言語及び第1外国語 各30分)

3) 第2外国語の試験

会議テキストのドイツ語への翻訳 (2時間)

逐次通訳 (基礎言語へ 30分)

同時通訳 (基礎言語へ 15分)

各国事情についての口述試験 (第2外国語にて 20分)

4) 資格取得論文 (テーマの指示より6ヶ月以内に提出)

ディプローム資格取得後博士号取得を目指すことも可能である。